

#### 4 平成30年度 ルーブリックを用いた自己評価分析（試行）

##### （1）身に付けさせたい資質・能力等

- ①日本の歴史・伝統・文化を理解する力
- ②思考力・判断力・表現力・情報活用能力
- ③グローバルな社会課題に対する関心・意欲・探究心
- ④コミュニケーション能力
- ⑤日本と諸外国を比較検討し異文化を理解しより良き未来を志向する力
- ⑥課題解決能力
- ⑦創造的提案を的確に発信する力
- ⑧英語力

##### （2）使用したルーブリック

課題研究プロセス1年 自己評価		研究テーマ(タイトル)		組	番 氏名
身につけさせたい資質・能力等 ①日本の歴史・伝統・文化に対する理解の深化 ②思考力・判断力・表現力・情報活用能力 ③グローバルな社会課題に対する関心・意欲・探究心 ④コミュニケーション能力 ⑤日本と諸外国を比較検討し異文化を理解しよりよき未来を志向する力 ⑥課題解決力 ⑦創造的提案を的確に発信する力 ⑧英語力					
資質・能力	項目	S(4) 新しい発想ができるレベル以上である	A(3) 他の視点や発想を取り入れることができるレベルに達している	B(2) 求めているレベルに概ね達している	C(1) 求めているレベルにもう少いで達する
②思考・判断・表現・情報活用能力 ③関心・意欲・探究心	テーマのたて方 (研究目的、調査項目の設定)	□独創的で、明確なテーマが設定されていて、研究目的や調査項目が分かりやすく整理されて示されている。	□明確で、実現可能なテーマが設定されていて、研究目的や調査項目が示されている。	□実現可能なテーマが設定されており、研究目的や調査項目が示されている。	□テーマが設定され、研究目的が示されている。
②思考・判断・表現・情報活用能力 ⑤異文化・未来志向力	先行研究・先行事例等の資料の活用	□信頼できる複数の情報源から情報を集め、先行研究・先行事例等の資料をテーマに関連付け効果的に活用している。	□信頼できる複数の情報源から情報を集め、先行研究・先行事例等の資料をテーマに関連付けている。	□複数の情報源から情報を集め、先行研究・先行事例等の資料を示している。	□これまでの先行研究・先行事例について示されている。
	研究方法(調査方法)と分析の視点	□複数の研究方法や分析の視点から、テーマ・研究目的にふさわしいいくつかの研究方法(調査方法)を用い、明確な分析の視点を示している。	□複数の研究方法や分析の視点から、テーマ・研究目的にふさわしい研究方法(調査方法)を用い、分析の視点を示している。	□テーマ・研究目的に沿った研究方法(調査方法)を用い、分析の視点を示している。	□研究方法と分析の視点が示されている。
⑤異文化・未来志向力 ⑥課題解決力 ⑦創造的提案	結論(提案・改善案) 今後の展望	□他国・地域と比較検討できるグローバルな要素のある社会課題となっている。また、調査から明らかになったことについて整理し、得た知見を効果的に用いて、より具体的な提案ができています。	□他国・地域と比較検討できるグローバルな要素のある社会課題となっている。また、調査から明らかになったことについて整理し、得た知見を用いて論理的に説明できている。	□調査から明らかになったことについて記述(発表)し、得た情報がある程度用いて説明できている。	□調査から得られた情報の記述(発表)しようとしている。
①日本の歴史・伝統・文化	日本の歴史・伝統・文化の理解の深化	□調査を通して日本の歴史・伝統・文化のグローバル社会における価値を捉え、論理的に説明できる。	□調査を通して日本の歴史・伝統・文化のグローバル社会における価値を捉え、テーマと関連付けてより具体的に説明できる。	□調査を通して日本の歴史・伝統・文化の価値を捉え、説明できる。	□調査を通して日本の歴史・伝統・文化の価値について触れている。
⑧英語力 ④コミュニケーション能力	課題研究発表とレポート	□英語で研究テーマ、目的、調査方法、分析、結論(提案・改善案)を説明できる。質問に英語で答えることができる。	□英語で研究テーマ、目的、調査方法、分析、結論(提案・改善案)を説明できる。	□英語で研究テーマ、要旨を説明できる。	□英語で研究テーマ、要旨を説明しようとしている。
項目に基づく全体評価 (自分を前向き評価してください)					
合計が20以上かつCが0=S(4)、16以上=A(3)、12以上=B(2)、12未満=C(1) 先生のコメント			全体評価 右のいずれかに○をつけてください。 S、A、B、C		

課題研究プロセス2・3年 自己評価 研究テーマ(タイトル)		年 組 氏名			
身につけさせたい資質・能力等 ①日本の歴史・伝統・文化に対する理解の深化 ②思考力・判断力・表現力・情報活用能力 ③グローバルな社会課題に対する関心・意欲・探求心 ④コミュニケーション能力 ⑤日本と諸外国を比較検討し異文化を理解しよりよき未来を志向する力 ⑥課題解決力 ⑦創造的提案を的確に発信する力 ⑧英語力					
資質・能力	項目	S(4) 新しい発想ができるレベル以上である	A(3) 他の視点や発想を取り入れることができるレベルである	B(2) 求めているレベルに概ね達している	C(1) 求めているレベルにもう少しで達する
②思考・判断・表現・情報活用能力 ③関心・意欲・探求心	テーマのたて方 (研究目的、調査項目の設定)	<input type="checkbox"/> 明確で実現可能な独自のテーマが設定されていて、研究目的や調査項目が分かりやすく整理されて示されている。	<input type="checkbox"/> 明確で、実現可能なテーマが設定されていて、研究目的や調査項目が示されている。	<input type="checkbox"/> 実現可能なテーマが設定されており、研究目的や調査項目が示されている。	<input type="checkbox"/> テーマが設定され研究目的が示されている。
②思考・判断・表現・情報 ⑤異文化理解・未来志向力	先行研究・先行事例等の資料の活用	<input type="checkbox"/> 信頼できる複数の情報源から情報を集め、先行研究・先行事例等の資料をテーマに関連付け効果的に活用している。	<input type="checkbox"/> 信頼できる複数の情報源から情報を集め、先行研究・先行事例等の資料をテーマに関連付けている。	<input type="checkbox"/> 複数の情報源から情報を集め、先行研究・先行事例等の資料を示している。	<input type="checkbox"/> これまでの先行研究・先行事例について示されている。
	研究方法(調査方法)	<input type="checkbox"/> テーマ・研究目的にふさわしい独自の研究方法(調査方法)を用いている。	<input type="checkbox"/> テーマ・研究目的に沿った研究方法(調査方法)を複数用いている。	<input type="checkbox"/> テーマ・研究目的に沿った研究方法(調査方法)を用いている。	<input type="checkbox"/> テーマ・研究目的に沿った研究方法(調査方法)を用いている。
②思考・判断・表現・情報 ④コミュニケーション能力	分析	<input type="checkbox"/> 調査した内容をグループでまとめ、先行研究・先行事例などと比較し、他者にわかりやすいように分析した結果をグラフなどで示している。	<input type="checkbox"/> 調査した内容をグループでまとめ、先行研究・先行事例などとの類似点・相違点など分析している。	<input type="checkbox"/> 調査した内容をグループでまとめている。	<input type="checkbox"/> 調査した内容をグループでまとめようとしている。
⑤異文化・未来志向力 ⑥課題解決力 ⑦創造的提案	結論(提案・改善案) 今後の展望	<input type="checkbox"/> 他国・地域と比較検討できるグローバルな要素のある社会課題となっている。また、調査から明らかになったことについて整理し、得た知見を効果的に用いて、より具体的な提案ができています。	<input type="checkbox"/> 他国・地域と比較検討できるグローバルな要素のある社会課題となっている。また、調査から明らかになったことについて整理し、得た知見を用いて論理的に説明できている。	<input type="checkbox"/> 調査から明らかになったことについて記述(発表)し、得た情報がある程度用いて説明できている。	<input type="checkbox"/> 調査から得られた情報の記述(発表)しようとしている。
①日本の歴史・伝統・文化	日本の歴史・伝統・文化の理解の深化	<input type="checkbox"/> 調査を通して日本の歴史・伝統・文化のグローバル社会における価値を捉え、論理的に説明できる。	<input type="checkbox"/> 調査を通して日本の歴史・伝統・文化のグローバル社会における価値を捉え、テーマと関連付けてより具体的に説明できる。	<input type="checkbox"/> 調査を通して日本の歴史・伝統・文化の価値を捉え、説明できる。	<input type="checkbox"/> 調査を通して日本の歴史・伝統・文化の価値について触れている。
④コミュニケーション能力 *今回は班全体の状況を見てチェックを付けてください。	役割分担と協力	<input type="checkbox"/> 自分の役割を積極的に果たしながら、他のメンバーの手助けを行い、グループ研究で行う優れた研究をリードしている。	<input type="checkbox"/> 自分の役割を十分果たすとともに、建設的な意見を出すなど、グループ研究に貢献している。	<input type="checkbox"/> 自分の役割はおおむね果たしているが、他のメンバーへの寄与はさほど大きくない。	<input type="checkbox"/> 自分の役割は自覚し、それを十分果たそうとしている。

\*中央教育審議会 高等学校部中央教育審議会『ルーブリックを活用したアセスメント』2012.11.19、愛媛大学課題研究ルーブリック、千葉工業高校ルーブリックを参考に作成

項目に基づく全体評価  
合計が25以上かつCが0=S(4)、20以上=A(3)、15以上=B(2)、14以下=C(1)  
先生のコメント

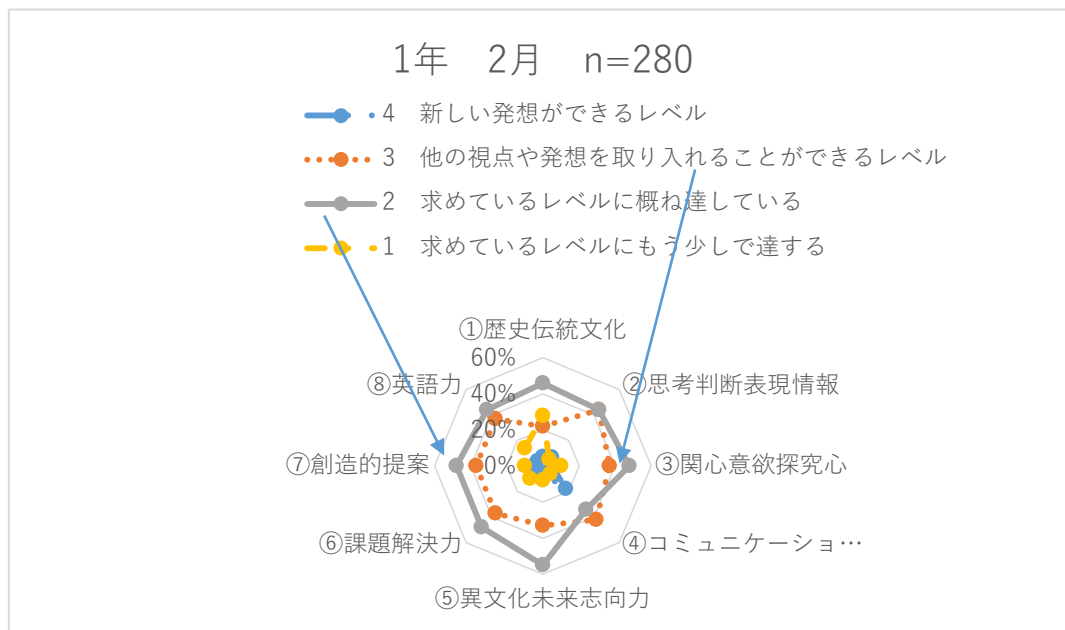
全体評価 右のいずれかにOをつけてください。S、A、B、C

(3) 1、2、3年のルーブリックを用いた自己評価の分析(身に付けさせたい資質・能力)  
 \* 8つの身に付けさせたい資質・能力のうち、ルーブリックの項目が重複している場合は、評価の高い方を優先した。

グラフ 1

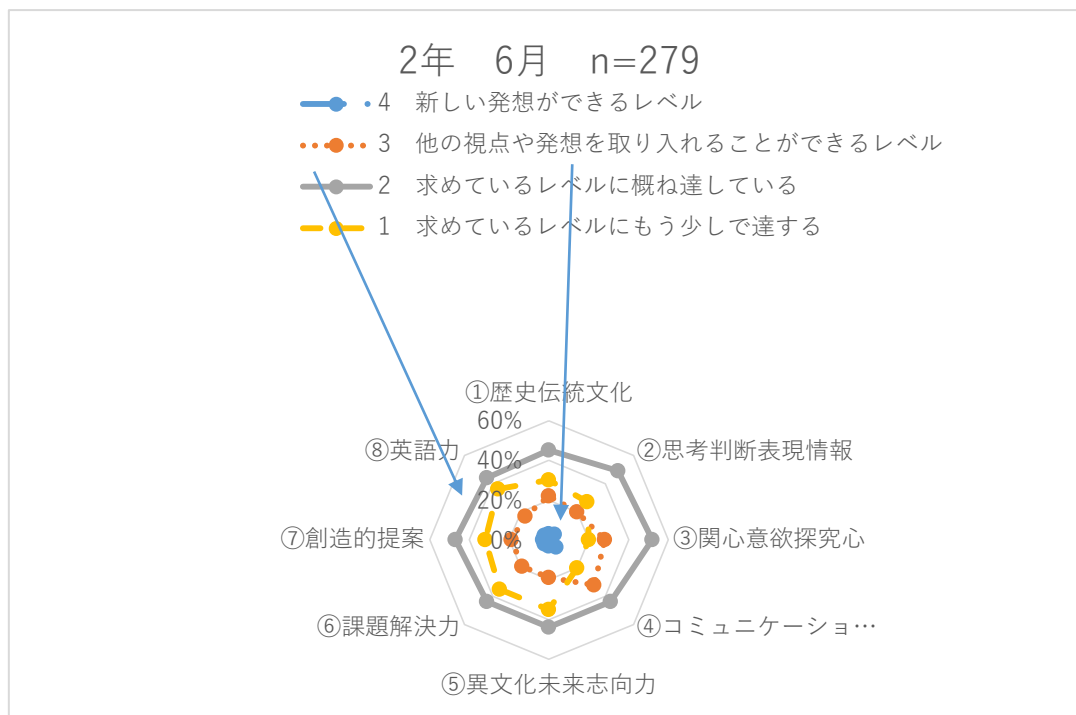


グラフ 2

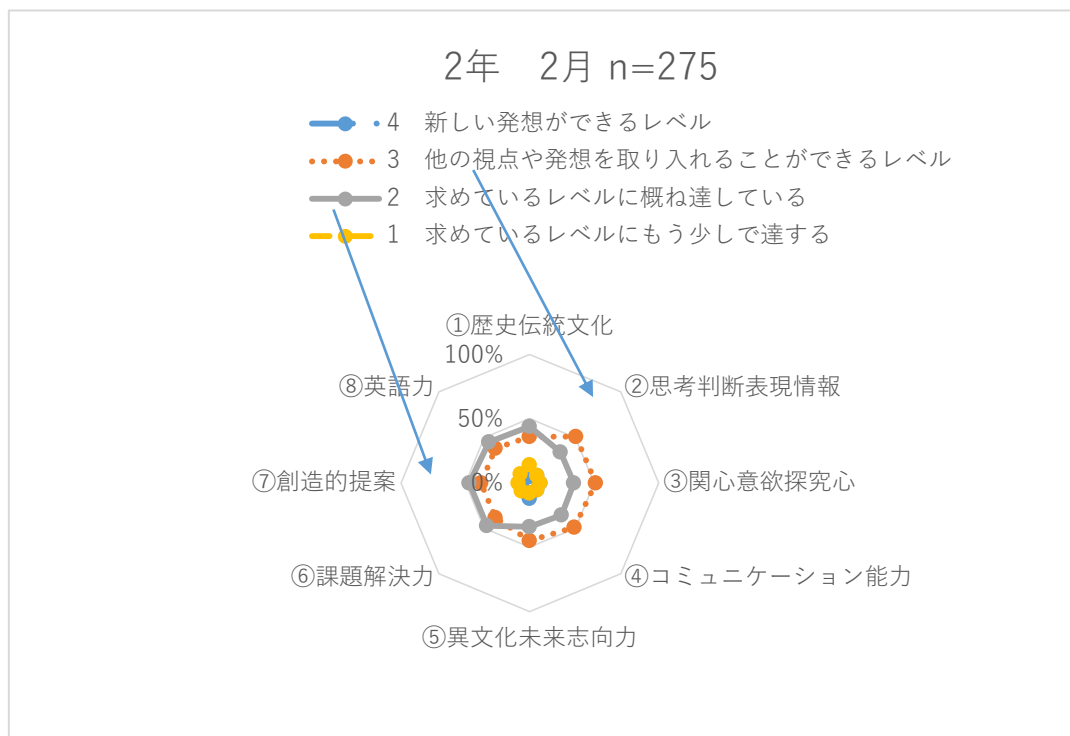


ア グラフ 1、2 より、1 年生は 8 か月で、2、3 という回答が大きく伸びている。  
特に異文化未来志向力の 1 は、50%を超えている。

グラフ 3

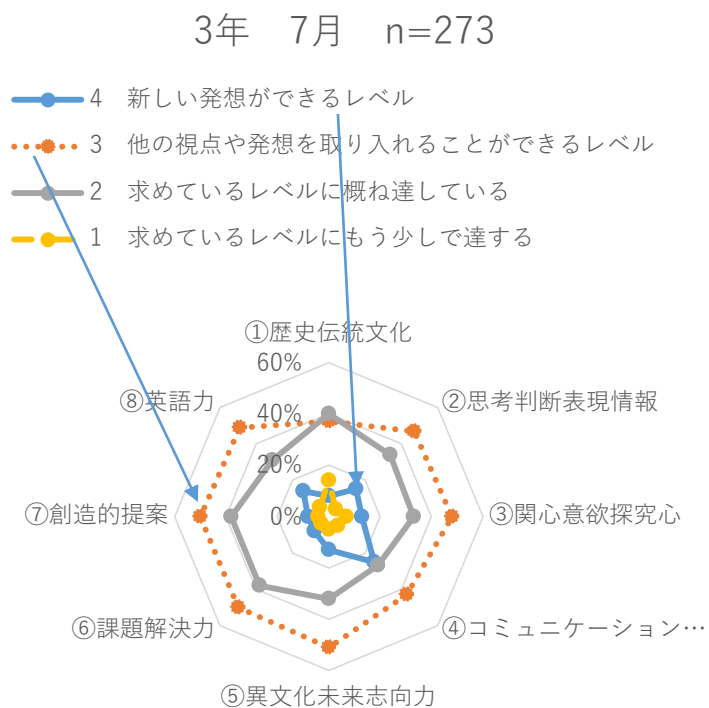


グラフ 4



イ グラフ 3、4 から、2 年生は、6 月より 2 月の方が、1、2 レベルの回答が減り、①～⑧のすべての力で 3 レベルの回答が大きく増えている。

グラフ 5



ウ グラフ1～4とグラフ5を比較すると、3年生では、3・4の評価が大きくなっており、3年生では3以上の評価をする生徒が、②～⑧の7つの資質・能力で60%を超えており、60%以上の生徒が3以上の評価を付けている。特に、2年生2月と比べると、⑧英語力が3、4レベルと評価した生徒は、20ポイント近く上がっている。3年生では、1と評価する生徒は、②～⑧の7つの資質・能力で10%未満である。

## エ 成果と課題

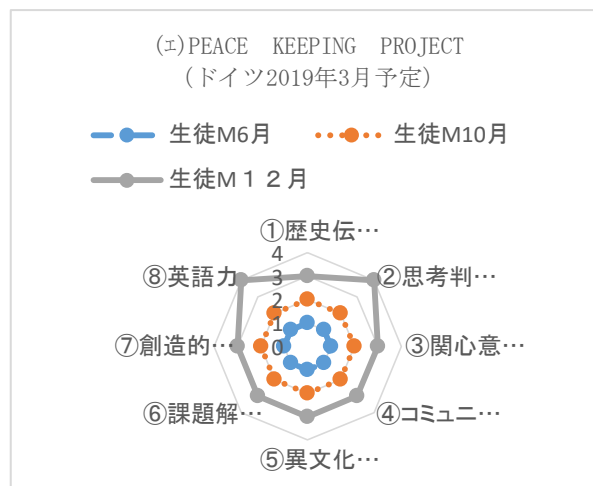
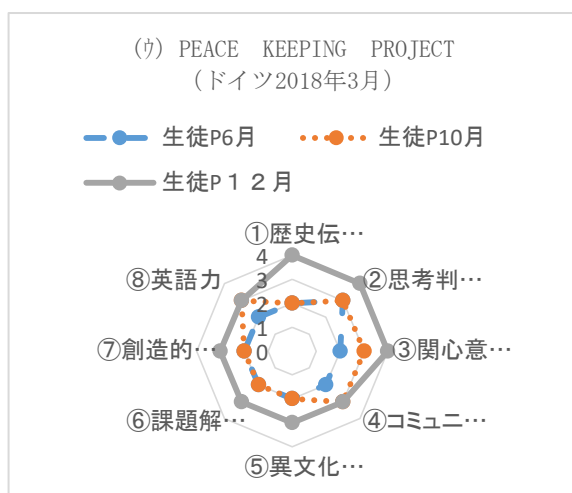
生徒の自己評価は、学年が進むにつれて高くなっている。生徒の自己評価と教員の評価は、課題研究グループ全体での評価は一致しているが、生徒個々の評価では必ずしも一致しない。生徒に身に付けさせたい資質・能力が大きく伸びていることでは一致している。今回の自己評価分析は、同一生徒の自己評価を1、2、3学年と3年間の比較したものではないので、今後は、同じ生徒の3年間の推移を分析していく必要がある。

また、今後は、教員が、生徒の課題研究の取組みに対して気づきを与える、より適切な質問ができるルーブリックへ改善する必要がある。

- (4) 2年生のルーブリックを用いた自己評価の抽出分析(身に付けさせたい資質・能力)
- \* 2018年7月から12月にかけて、立教大学発表会に参加した4グループ・23名で調査し、3グループ11名を記載した。
  - \* (ア)～(イ)は、研究タイトル、( )は海外研修先を示す。
  - \* ①～⑧は、身に付けさせたい資質・能力を示している。
  - \* 8つの身に付けさせたい資質・能力のうち、ルーブリックの項目が重複している場合は、評価の高い方を優先した。
  - \* 評価は、以下の四段階による。
    - 1 求めているレベルにもう少しで達する
    - 2 求めているレベルに概ね達している
    - 3 他の視点や発想を取り入れることができるレベルである
    - 4 新しい発想ができるレベル以上である

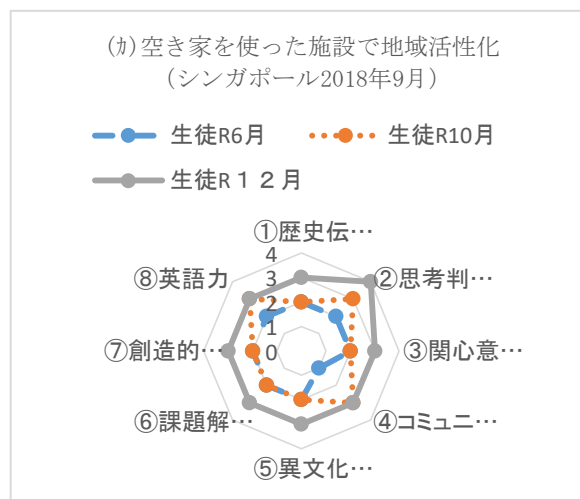
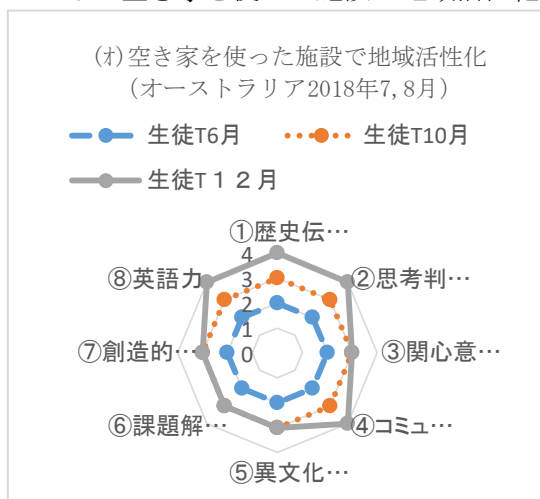
## ア PEACE KEEPING PROJECT

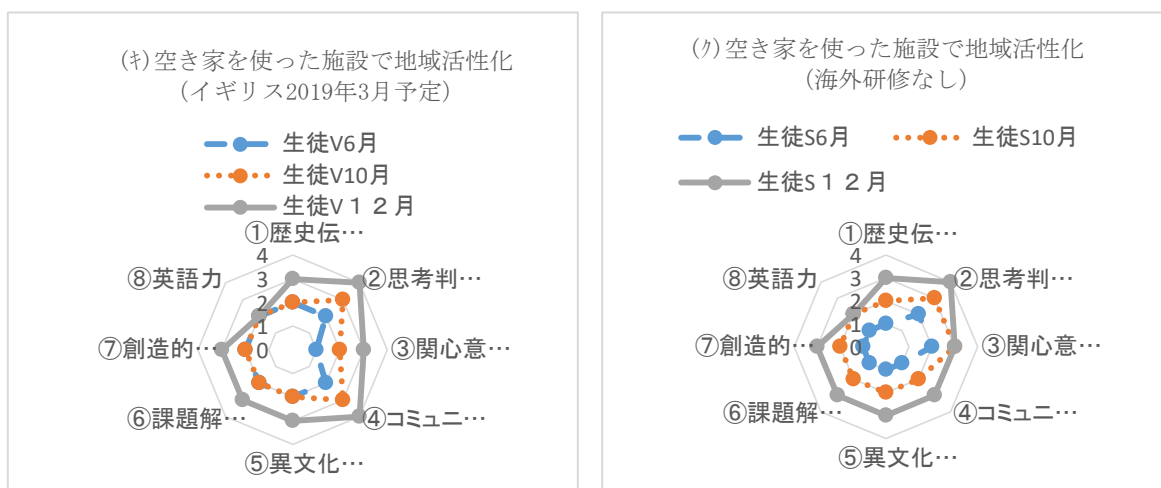




4名とも7月、10月、12月と研究が進むとおおきく8つの身に付けさせたい資質・能力が大きく伸びていることがわかる。特に、海外研修に参加した3名の生徒の③関心意欲探究心が海外研修後、4と大きく伸びている。これから海外研修を経験する(エ)の生徒は、海外研修を経験した3名より①日本の歴史伝統文化に対する理解の深化が1ポイント低い。ここから、海外研修の事前指導および海外研修とGL日本史・GL地理の学習によって、生徒の日本の歴史伝統文化に対する意識が高まると考えられる。

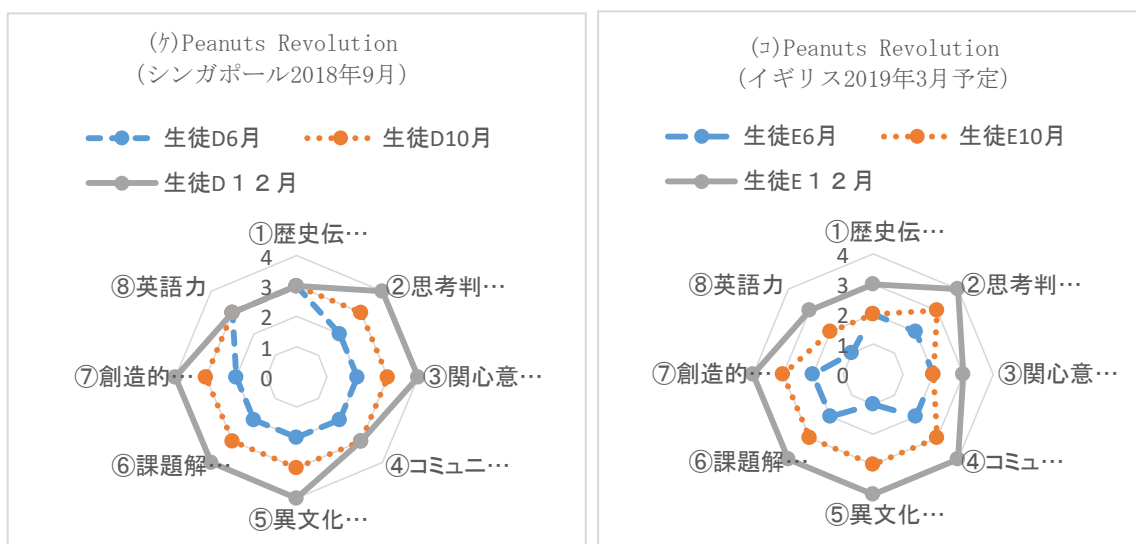
## イ 空き家を使った施設で地域活性化

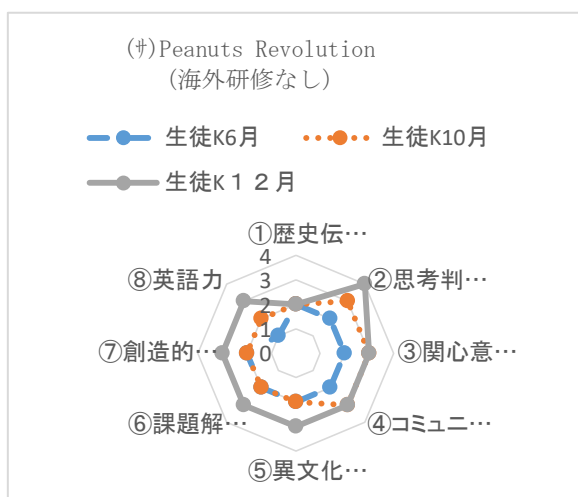




ア同様、4名とも7月、10月、12月と研究が進むとおおきく8つの身に付けさせたい資質・能力が大きく伸びている。海外研修を経験した(オ)、(カ)の生徒と比べると、(キ)、(ク)の生徒は①、⑧が低い。ここから、ア同様、海外研修等の学習が①、⑧の力を伸ばす重要なプログラムであることが確認できる。(オ) オーストラリア研修(16日間)参加生徒と(カ) シンガポール派遣(4日間)参加生徒の生徒を比較すると、長期研修(14日間)参加生徒は、短期派遣(4日間)派遣生徒より①、④コミュニケーション能力、⑧の力は伸びている。海外研修は①④⑧の力を身に付ける上で有効である。

## ウ Peanuts Revolution





ア同様、4名とも7月、10月、12月と研究が進むと、8つの身に付けさせたい資質・能力が大きく伸びている。(ケ)シンガポール派遣の生徒とア(ア)・イ(オ)オーストラリア派遣生徒を比較すると、イ同様長期研修(14日間)参加生徒は、短期派遣(4日間)派遣生徒より①、④、⑧の力は伸びている。(サ)の海外研修に参加していない生徒の①の力は参加している生徒より低い。ア同様、海外研修の事前指導及び海外研修によって、生徒の日本の歴史伝統文化に対する意識が高まると考察できる。

#### (5) 成果

海外研修や校外の発表会に参加したグループの生徒個々の自己評価は高く、自己肯定感が高まっていることがわかる。海外研修参加者や校外発表参加者が、グループの課題研究においてリーダーシップを発揮し、グループ内個々の身に付けさせたい資質・能力を高めるといふ相乗効果を生みだしている。

評価結果から、多くの生徒が自分のよい点や進歩の状況に気づき、自らの成長を実感できている。全体として、身に付けさせたい8つの力は伸びている。特に海外研修や発表会の指導の効果は大きい。

#### (6) 課題

事前指導、事後指導を担当する教員の負担や経済的負担は大きい。今後は、外部指導者との連携を取りながら、より効率的で効果的な評価方法(ループリックの改善等)や指導方法(ループリックや発表評価を参考にしたより適切な質問等)を構築していく必要がある。